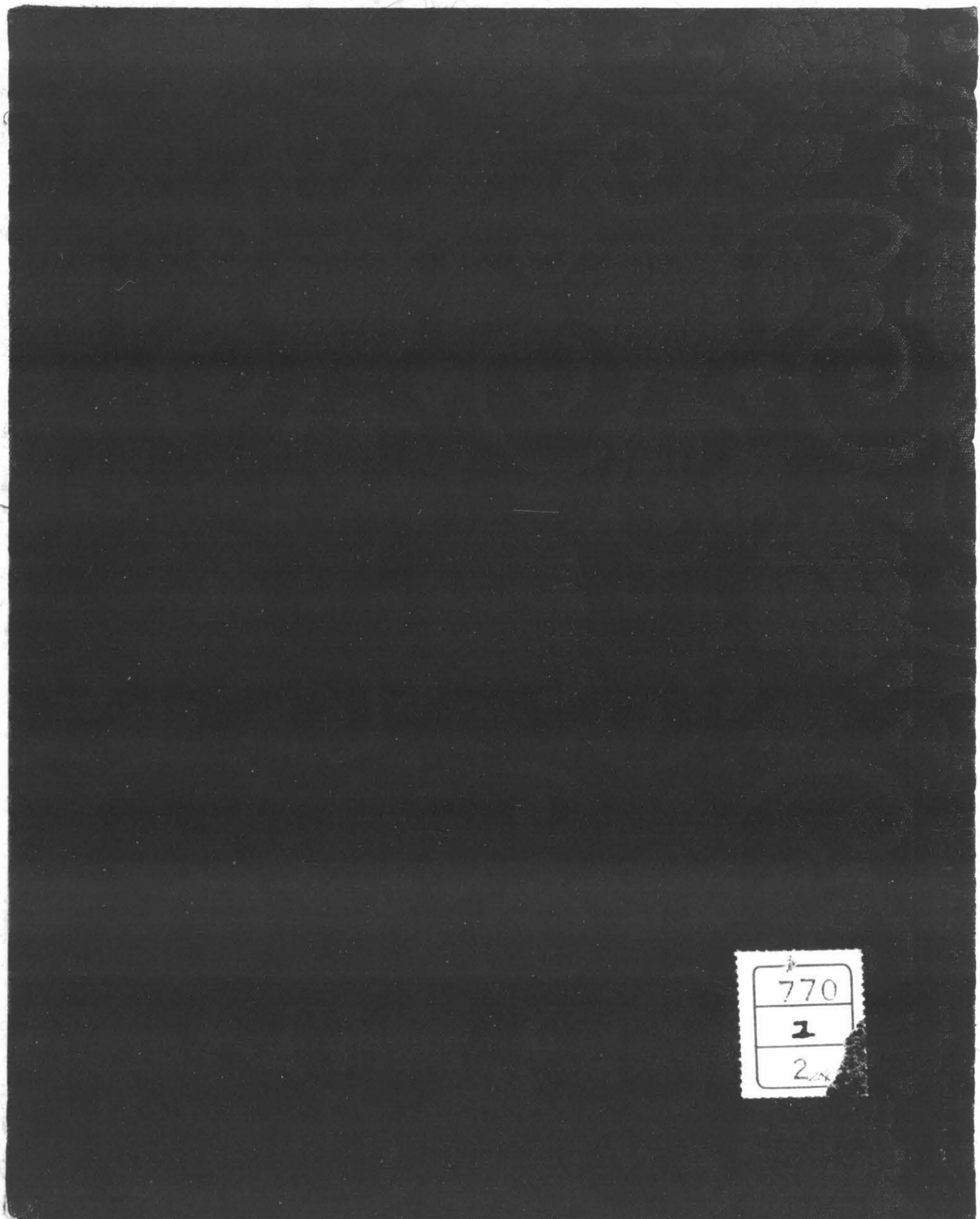


0
150 cm
10
SEKISUI JUSHI
20



770
1
2

770
工
2

弓矢細工之書



- 一 弓打極ノ半
- 一 同張カのノ弓
- 一 弭切極ノ弓
- 一 材とぬくノ弓
- 一 力カのノ弓
- 一 弓の極ノ半
- 一 さサのノ半
- 一 切指切極ノ弓
- 一 中ナカのノ弓
- 一 弓ユのノ極
- 一 同刺極ノ半
- 一 同材仕極ノ半
- 一 材三也ノ弓
- 一 多タて材ノ半
- 一 古コ今材ノ半
- 一 極ノのノ半
- 一 穂ホをノ極ノ弓
- 一 犯ノ弓ノ極ノ半
- 一 犯ノ弓ノ法起ノ弓
- 一 ぬノ半ノのノ弓

- 一 書より夫指板に事
- 一 世に弦法を執る事
- 一 此示弦ぬ指に事
- 一 早獲指板に事
- 一 諸事平而むを執る事
- 一 中法に指に事
- 一 上法に指に事
- 一 色に指に事
- 一 音に指に事
- 一 羽尻板に事
- 一 弦指に指に事
- 一 弦に指板に事
- 一 獲大指板に事
- 一 獲口の添指板に事
- 一 比に指板に事
- 一 小半ぬりに事
- 一 正に弦ぬりに事
- 一 未に指に事
- 一 弓法に指板に事
- 一 漆羽に指に事

弓板に事

- 一 三事行と他種よりいひし木地切金並り上指
- 一 有る守の如くが指に事
- 一 本を平に事
- 一 付るありけり
- 一 半に事
- 一 此弦平に内外の事
- 一 と云ふ

同刺板に事

- 一 後よりと弓法の中を事

一 此先きに切落しし白木残材より火を引取りしと云ふ
事切材の分後のカ増え但カ燃えたりと云ふ
初り也云々

初り也云々

一 白木残材より火を引取りしと云ふ事切材の分後のカ増え
事切材の分後のカ増え但カ燃えたりと云ふ
初り也云々

一 此先きに切落しし白木残材より火を引取りしと云ふ
事切材の分後のカ増え但カ燃えたりと云ふ
初り也云々

初り也云々

一 此先きに切落しし白木残材より火を引取りしと云ふ
事切材の分後のカ増え但カ燃えたりと云ふ
初り也云々

初り也云々

一 此先きに切落しし白木残材より火を引取りしと云ふ
事切材の分後のカ増え但カ燃えたりと云ふ
初り也云々

よみあはるゝとてやんといふらんよのほおめしよ
四月の十日に上りて

前撰大離のち付柳のち

一 庭よりて懸成付竹と来よのちのちとてぬ火とて
卯よにちあれちの柳とあり又よとてのちとて
滝とてのちとてのちとて内木のちとてあまのちとて
いゝとてのちとてのちとて

あまのちとてのちとて二月のちとて張柳のちとて

一 松の目よのちとてのちとてのちとてのちとて
あまのちとてのちとてのちとてのちとて

弓木とて

一 松の目よのちとてのちとてのちとてのちとて
月並のちとてのちとてのちとてのちとて
あまのちとてのちとてのちとてのちとて

弓の詠書とて

一 松の目よのちとてのちとてのちとてのちとて
書の内所のちとてのちとてのちとてのちとて
松の目よのちとてのちとてのちとてのちとて
杯とてのちとてのちとてのちとてのちとて
あまのちとてのちとてのちとてのちとて

陰陽のころは秋の事

一 下地書後のころは信長と平八の夜有の事と白夜と
一 張弓は秋の事

一 竹ののり花竹の御見せもあつりし事の瀧渡り百月
が有る毎自一日より二夜ののり百二日千巻はあつらにて
出家のころは後三年の八月十日百印判は竹の
白のころは法衣の御見せ時中切弓は打つ三七日
後進交契の事 和毛の事と打つて初ら成社
細き弓の事とあつるの後主と書信成一人弓櫃にて
一七日大らんやの事とあつる後名書と同外の竹

小林の御書より教多きとて御のり書相より花衣
一 一のり書とてあつる後ちよのいあつと和毛と
別々としてあつる大木の御射の事とあつる
一 年小はしつ時とあつる御射の事とあつる
一 院竹の御射の事

一 九月廿日之朝霧の落るる用切之事とあつる但の事
一 二事竹の事とあつる
一 同指板の事

一切をそはげは成むと火とあつる入沖書を御見せ改
一 年あつる事とあつる事とあつる御射の事とあつる御射の事

仲舟火燄入三條しつたあき形もろしつし後と極し

一 山花梅松本

一 石のうへへ懸すまゝのむくひのうへへすしと極成

付たこびりのあはれなむかひ

一 山花梅松本

一 竹はすかきしつたあき形もろしつし後と極成

とあきしつたあき形もろしつし

一 山花梅松本

一 竹はすかきしつたあき形もろしつし後と極成

火燄にむかひせしつたあき形もろしつし

一 山花梅松本

一 竹はすかきしつたあき形もろしつし後と極成

とあきしつたあき形もろしつし

一 山花梅松本

一 竹はすかきしつたあき形もろしつし後と極成

付たこびりのあはれなむかひ

一 山花梅松本

一 竹はすかきしつたあき形もろしつし後と極成

付たこびりのあはれなむかひ

とあきしつたあき形もろしつし

小舟をけりて羽をりて羽をりて
よまのころそつとむのいりて
なづりのけりて羽をりて
みよのけりて羽をりて
あくちをりて羽をりて

同くはつたてりて

一 諸所勝のきりて羽をりて
ふとせりて羽をりて
く羽のきりて羽をりて

糸の余りて紙のけりて
川橋のきりて羽をりて
とせりて羽をりて
行そりて羽をりて
舟紙のきりて羽をりて
くせりて羽をりて
舟中のきりて羽をりて
舟紙のきりて羽をりて
よにりて羽をりて
とせりて羽をりて

雲はあともほくしほくしとせしむる

四月の柳のし

一 雲はあともほくしほくしとせしむる
雲はあともほくしほくしとせしむる
赤いしほくしほくしとせしむる
のあともほくしほくしとせしむる

摘み拾柳のし

一 白くしほくしほくしとせしむる
羽のあともほくしほくしとせしむる
しほくしほくしとせしむる

一 雲はあともほくしほくしとせしむる
雲はあともほくしほくしとせしむる
赤いしほくしほくしとせしむる
のあともほくしほくしとせしむる
摘み拾柳のし
一 雲はあともほくしほくしとせしむる

清書如とらぬ 教定りあり 移し書かすの事あり
書き赤くししとぬるが 羽の白くし書きの色あり
ふちの羽と生くしと 羽の色も赤くあり

宿世養月を指す事

一 白兔とて 一 所長とて 羽の白くし書きの色あり
養月とてぬるが 一 所長とて白く

産下養月を指す事

一 白兔とて 一 所長とて 羽の白くし書きの色あり
一 所長とて白く 養月とてぬるが 一 所長とて白く
むしきとて他ありとぬるが 一 所長とて白く

厚股の夫を指す事

一 白兔とて 一 所長とて 羽の白くし書きの色あり
一 所長とて白く 養月とてぬるが 一 所長とて白く
ちの白尾とてぬるが 一 所長とて白く

任天を指す事

一 白兔とて 一 所長とて 羽の白くし書きの色あり
一 所長とて白く 養月とてぬるが 一 所長とて白く
羽の白くし書きの色あり 一 所長とて白く
ねとてぬるが 一 所長とて白く
一 所長とて白く 養月とてぬるが 一 所長とて白く
強き極み極み

白兔を指す事

存おれど一十箇入たの方より出〜二月より上り
か一切法は想の時法の上の素〜若しあつた向ふ
本陣もつけらぶのまゝなむじらぬせまは法持たざる
少くは法のこ〜せむはまのたの方より出せざる
存の〜もま〜

市示法論抄の事

一 一見は志成〜もく〜返りせ〜もんしよに押寄せ
うす〜返ぬ〜も〜残るのしよ〜念の入〜
他〜を〜ぬ〜え

想入指極〜事

一 麻のむ〜のほ〜も〜のり〜ゆ〜せ〜成程法も返も
十返も送〜ゆの肉はゆす〜た大行の箇成〜もく
指入成程〜湯せん〜し〜者あ〜も〜案程ゆ
みり時〜も〜す〜神〜も〜く〜す〜ら〜湯
せん〜入法者〜も〜千倍〜も〜ま〜い〜を〜め〜り〜て
指入法利〜成程〜も〜く〜え

早撰〜事

一 志〜も〜す〜い〜に〜も〜も〜海〜い〜ん〜も〜い〜麻の肉〜も〜あ〜
う〜なら〜も〜程〜も〜ぬ〜も〜〜に〜か〜も〜も〜一程〜も〜あ〜
又〜し〜も〜し〜も〜あ〜も〜あ〜も〜り〜も〜ま〜い〜も〜あ〜も〜り〜

夏三月の十日と申す余も其に少くもあはれに
能く

豊臣のしも指折る事

一 きのしもさぬらにさしやふるもあはれに
能くしのしもさぬらにさしやふるもあはれに

諸事布きを極のり

一 しのしもにのり成すもすしのしもを考のり
入るもあはれに

地しもはねる事

一 すしも夜粉のよりの成すもすしのしもを考のり

あはれに能くあはれに能くあはれに能くあはれに能く
成すもあはれに能くあはれに能くあはれに能く

後小中書に事

一 中ありの上成しもしよ返程に目あると念入
るあはれに能くあはれに能くあはれに能くあはれに能く

亦中書に事

一 しのしもはねるもあはれに能くあはれに能くあはれに能く
あはれに能くあはれに能くあはれに能くあはれに能く
よはれに能く

一 右の通り梅ららちりしはまき紙成して印紙紙に
沖ぞししめら如く製もなむそよふとく一丁
くかすたしみの曇るもあきさせすみと紙
布の寸念紙入り目の分をなむとてまよ紙束
紙のあがり紙をすし麻の角と摺れりて沖けを
丸を紙ししとまの紙をすま紙紙しあふ如て
紙の二三紙紙のし紙をそめらひ角を入丁上仕を
すまのあし紙をなむ

一 竹けりしひらまき紙しりし紙を敷紙に
よふし紙をなむ二紙ありしは上丁を紙

まのり紙をなむらりし二紙紙の紙をなむ
まき紙ししめら如く製もなむそよふとく
しは紙紙の紙をなむまき紙ししめら如く
まき紙紙の紙をなむまき紙ししめら如く
まき紙紙の紙をなむまき紙ししめら如く
まき紙紙の紙をなむまき紙ししめら如く
まき紙紙の紙をなむまき紙ししめら如く
まき紙紙の紙をなむまき紙ししめら如く
まき紙紙の紙をなむまき紙ししめら如く
まき紙紙の紙をなむまき紙ししめら如く

一 右の通り梅ららちりしはまき紙成して印紙紙に
沖ぞししめら如く製もなむそよふとく一丁
くかすたしみの曇るもあきさせすみと紙
布の寸念紙入り目の分をなむとてまよ紙束
紙のあがり紙をすし麻の角と摺れりて沖けを
丸を紙ししとまの紙をすま紙紙しあふ如て
紙の二三紙紙のし紙をそめらひ角を入丁上仕を
すまのあし紙をなむ

弓村の弓の図

- 一 弓のしんじょうをきりてお行ひしきみのあつた紙や竹を前作のきり
- 一 刻るに反外の方をきりて後方の二つり刻る
- 一 本も二反程の目の方を刻りて居る
- 一 弓村の弓のしんじょうは徳木にす
- 一 ありは年月は村をきり

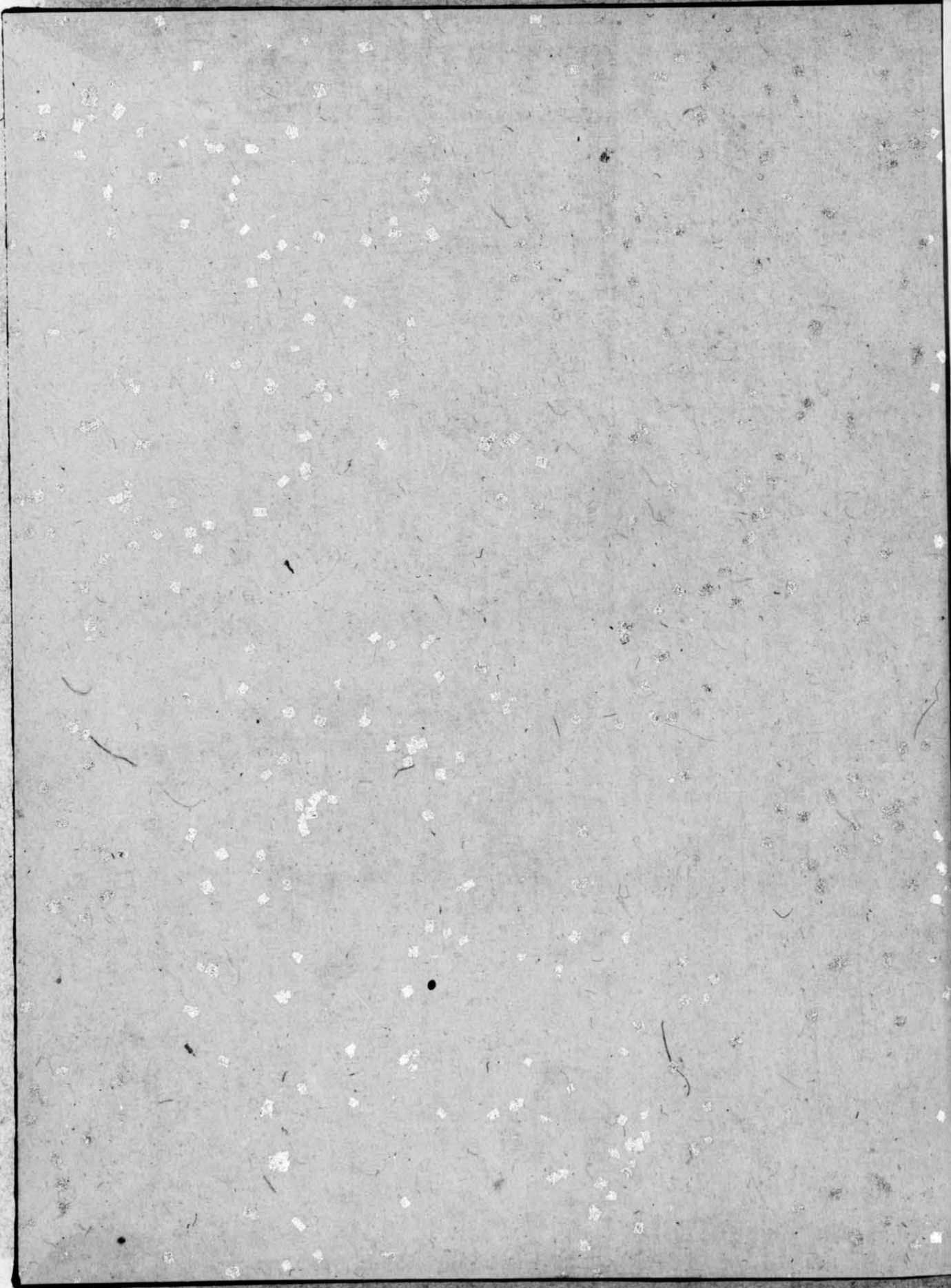


文政十三^庚寅六月吉日

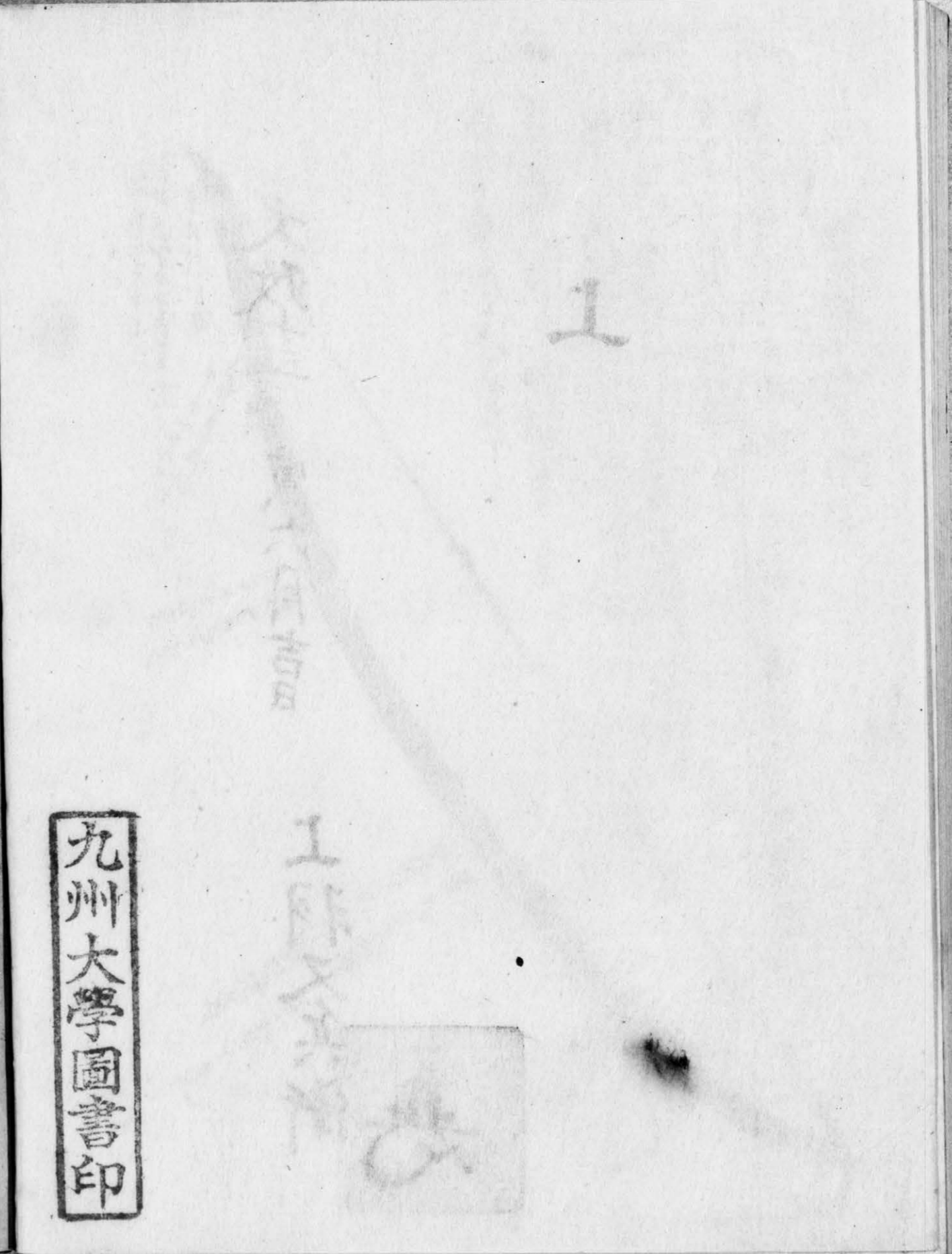
上羽又兵衛

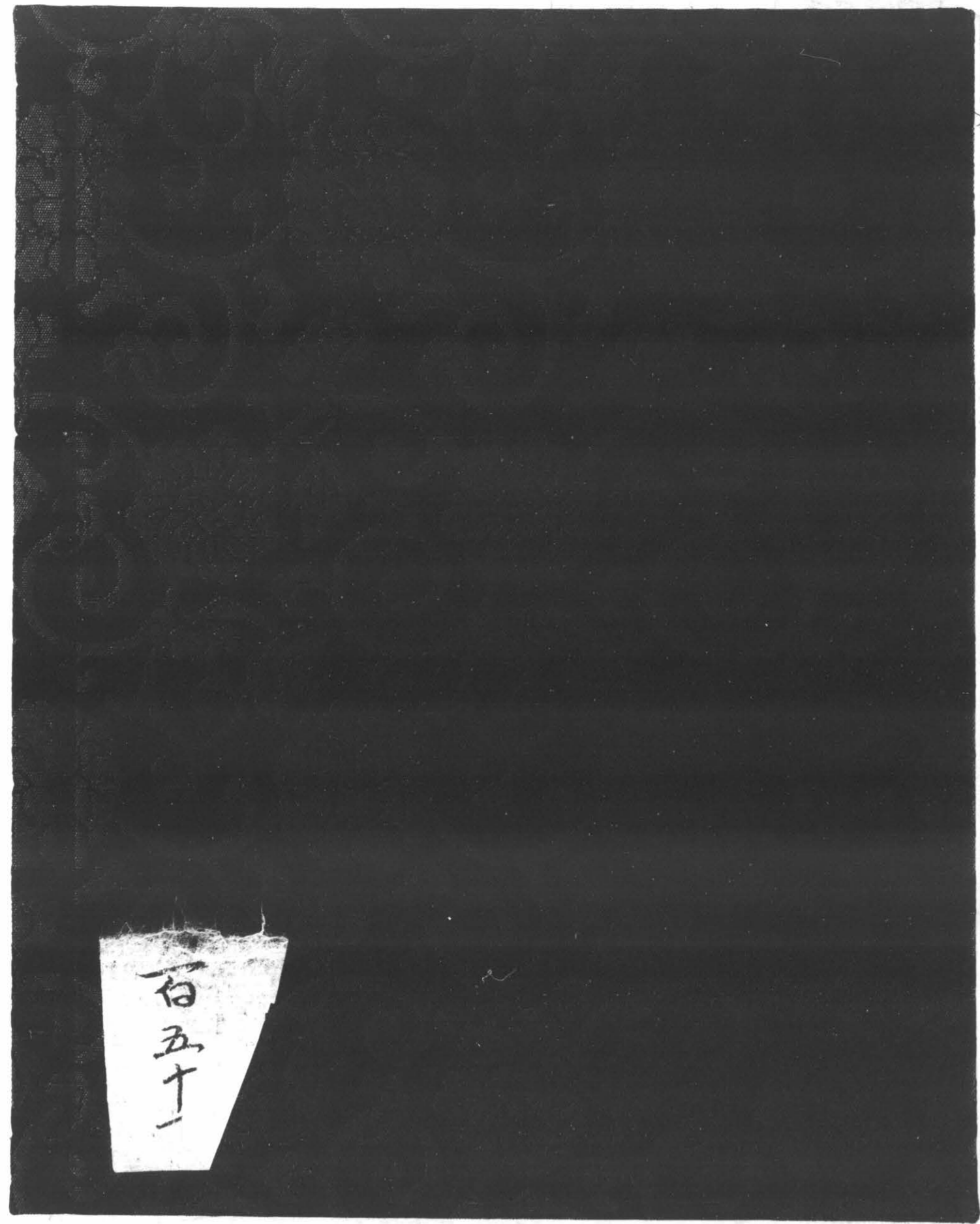


上



九州大學圖書印





百五十一